

内部に集中力を受ける1/8無限等方弾性体の解析解

大阪工業大学 正員 岡村 虎一
東洋技研コンサルタント(株) 正員 〇島田 功

1. まごき; 本文は、特異性を持つ解を応用し、内部に集中力を受ける1/8無限等方弾性体問題の解析解を報告してゐるのである。物体力問題に對しては、古くは無限体領域の1点に集中力が作用するときの Kelvin の解、半無限体領域の1点に集中力が作用する場合の Mindlin の解があり、素解として多くの3次元問題の解析に用ゐられてゐる。ここに2種々の境界を持つ素解の開発は、数値解析上境界処理を容易にし、精度を向上するに、有用であると考えられる。本報告では、その境界表面が (a) 自由、および (b) 固定の場合について一般解法を示し、他の特殊な境界条件の場合についても示した。

2. 基礎式、および基本解; 均質な等方弾性体の釣合式と変位 (u, v, w) を表せば次式となる。

$$(\lambda + G) \frac{\partial e}{\partial x} + G \nabla^2 u = 0, \quad (\lambda + G) \frac{\partial e}{\partial y} + G \nabla^2 v = 0, \quad (\lambda + G) \frac{\partial e}{\partial z} + G \nabla^2 w = 0$$

----- (1)

ここで $\lambda = \frac{\nu E}{(1+\nu)(1-2\nu)}$, $G = \frac{E}{2(1+\nu)}$, $e = \frac{\partial u}{\partial x} + \frac{\partial v}{\partial y} + \frac{\partial w}{\partial z}$, $\nabla^2 = \frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}$
 ν ; ポアソン比

式(1)を書きかえると

$$\nabla^2 \xi_1 = 0, \quad \nabla^2 \xi_2 = -\frac{\lambda + G}{G} \frac{\partial}{\partial z} \xi_1, \quad \nabla^2 \xi_3 = 0$$

----- (2)

ここで $\xi_1 = e$, $\xi_2 = \frac{\partial w}{\partial z}$, $\xi_3 = \frac{\partial u}{\partial y} - \frac{\partial v}{\partial x}$

式(2)は、 (u, v, w) , (x, y, z) をサイクリックに変えることにより、後2組の基礎式を得るが注)省略する。式(2)の基礎式を用いる場合の微分方程式の解、および変位成分は次のようになる。

$$\xi_1 = \frac{A}{r}, \quad \xi_2 = \frac{B}{r} - \frac{\lambda + G}{2G} A \frac{\partial r}{\partial z}, \quad \xi_3 = \frac{C}{r}$$

----- (3)

ここで A, B, C ; 積分定数, $r^2 = (x-x_i)^2 + (y-y_i)^2 + (z-z_i)^2$

$$\left. \begin{aligned} u &= -\frac{1}{G} \iiint \left\{ (\lambda + 2G) \frac{\partial \xi_1}{\partial x} - G \frac{\partial \xi_2}{\partial x} + G \frac{\partial \xi_3}{\partial y} \right\} dz dZ \\ v &= -\frac{1}{G} \iiint \left\{ (\lambda + 2G) \frac{\partial \xi_1}{\partial y} - G \frac{\partial \xi_2}{\partial y} - G \frac{\partial \xi_3}{\partial x} \right\} dz dZ \\ w &= \int \xi_2 dz \end{aligned} \right\} \text{----- (4)}$$

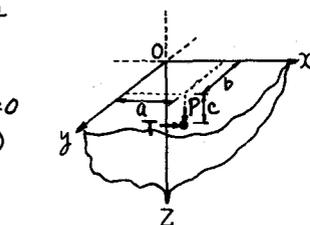


図-1 1/8無限体

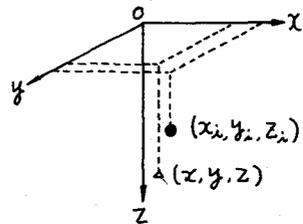


図-2

式(3)は、図-2の点 (x_i, y_i, z_i) で特異点を持つ解であり、集中力問題の解を表わしてゐる。

注) 基礎式(2)は図-1において、 $z=0$ の境界条件を満足させる場合の式である。 $x=0$, および $y=0$ の境界条件を満足させる場合は残り2組の基礎式をそれぞれ用ゐる。

